



〇113〇

ミスター・ガラサ

沖繩本島には琉球新報 一知事が、うれしそうに
と沖繩タイムスという インタビューに答えてい
つの新聞がある。本島か る新聞を見た。
ら、300*も離れた孤島、 「いつもテックという
宮古島から、タイムス紙 かキックとまげられる。
の一面に風刺漫画「時事 冷や汗たらたらです」
漫評」を週4回、休むこ と苦笑している。そし
ら。新聞に掲載された政 治絶妙の地にて、権力

で、作者に無断で県の役 人が撤去するという事件
が起きた。政治色が強い
はす。50点はすべて、タ ー
球の丸を植えられたのだと
も自らの木が切られ日
旗が植えられている。悲
惨な沖繩戦の体験のあと

琉球新報の論壇に兼城 淳子さんが、タイムス紙
の「時事漫評」について
書いている。93年摩文仁
で天皇がやった植樹祭の
後「植えられたもの…
…」というひと手漫画
が掲載された。太い切り
株の一つ一つに日の丸の
旗が植えられている。悲
惨な沖繩戦の体験のあと

とみな送りのことについて、一方、批判の中に温 治漫画を気に入らないか
漫画家がある。 にかさを感じるという、奥 ちと排除するのは変だ。
砂川友弘さんだ。 さんが、知事登場の漫画 多分、知事のご機嫌ど
砂川さんのペンには鋭 を切り抜いて溜めている の役人たちが、知事夫妻
い。ブッシュも、プーチ ことをうちあげている。 が、このマンガ家のフマ
ンもブッシュも、小泉首 昨年の12月、ぼくは例 ンであることも知らずに
相や稲積知事にも突きつ 年通り沖繩県立芸大の集 やったのだろう。
ける風刺の剣は容赦がな 中授業にでかけた。 ぼくは13年前、展覧会
い。 「度その時、沖繩文化 を開くために宮古島へ渡 うので、ぼくは授業を終
01年9月、「時事漫評」 祭に招待出品された砂川 った。高山は高いが、 えて出かけた。美術館の
が満10周年を迎えた。 さんの作品50点が「政治 樹木に覆われた美しい島 ロビーに撤去された漫画
風刺される側の稲積憲 色が強い」という理由 だった。深い森の奥には が展示され60人ほどの人



たちが集まっていた。 砂川さんは、ぼくらよ
りひと回り年下の50歳、
朴訥な感じの男で、借り
てきた猫のように静かに
座っていた。
会場から浪人生やマス
コミ労組の若者、主婦、
その時、砂川さんが、
「こんな立派な美術館え。ピカソみたいに、世
熱い発言がつついた。皇に、ぼくの漫画が展示
民化教育、戦争体験、長 れて、県の役人たちにお
い間のアメリカ支配の言 礼を言いたい」
と発言したのだ。
祈念資料館展示改ざん事 せいちゃん、ぼくらあ
件など、大きな怒りで会 は、物心がつく前から、
場が爆発寸前だった。 大人になったら絵描きに
その時、砂川さんが、 なるよと決めちゃったね の島(淡路島)に棲ん 画を削ったがよ。
「こんな立派な美術館え。ピカソみたいに、世 砂川さんみたいに、
界をあっと言わせる芸術 鋭く柔らかくて、深い
家になっちゃうとききこ 仕事で、自分自身に迫る
んだ時期もあったし、時 ことのできるもの削りに
代を引張って行くよう なれたと思いたい。
なれなと思いたい。 それで、砂川さんをモ
デルに「男の肖像」とい
うシルクスクリーンの版
画を削ったがよ。
(絵と文・田島征彦)